

ティーチング・ステートメント

所属 商学科
名前 西村 悠
作成日 2022/03/15

【責任】

商学部商学科に所属し、コミュニティデザイン、チームコミュニケーションを中心とした教育・研究活動を行っている。主に社会力基礎科目（社会力演習、ICT リテラシー）を担当し、横浜市鶴見区と連携して授業を提供する「地域課題研究」も受け持っている。また入学した1年生が大学での生活や学び方に早く馴染めるよう、学生アシスタントを活用した社会力基礎科目での学習支援と、学習支援室の運営も行っている。

【理念】

学生にはどのような環境に身を置いてもそこに適応し、生き抜いていく力を持った人材になってほしい。現代はVUCAの時代と言われるように変化が激しく、予測困難な時代である。変化を好む人にとっては魅力を感じる側面もあるが、変化に慎重で、時間をかけて一つのことを極めたいと思っている人にとっては、ある日突然自分が培ってきた経験や知識が「時代遅れ」になってしまう怖さもある。

そのような時代において、生涯学び続ける自律的な学習者としての姿勢、他者をウェルビーイングな状態へと導く貢献的な態度、自身の専門性とその活かし方の3つが重要だと考えている。それは予測困難な状況においては個人の力だけで困難を乗り越えることは難しく、他者から信頼され、互いに助け合っていく中で、個人では見いだせなかった可能性を発見することができるからである。

そのためにも、変化を怖がるのではなく、どのような環境に身を置いてもそれを楽しめるマインドと、変化に惑わされない、自分だけの価値観・生き方を発見するきっかけを学生には得て欲しい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、大学の授業や学生アシスタント制度の運営では「学習・活動の動機づけ」「実践を通して学ぶ」の2つの方針で活動している。

「学習・活動の動機づけ」

- 学ぶことそのものが楽しいと思ってもらうことで、学生が自ら学びたいと思えるよう「分かりやすさ」だけでなく「面白いか」を意識して授業資料を作成している。
- 学生からの質問・改善の要望には必ず答えるようにしており、その都度改善している。それにより学習の妨げになる要因を減らしていくようにしている。
- 学生の成果物や活動にはフィードバックを提供するようにしている。フィードバックはポジティブなこと、ネガティブなことの両方を提供しており、学生が自分自身で改善のきっかけを掴めるようにしている。

「実践を通して学ぶ」

- 学生アシスタントの活動では、身近な問題を通して解決策を考えてもらうことで、チームコミュニケーションやリーダーシップ、思考の組み立て方を学んでもらっている。教員はファシリテーターとして振る舞い、学生たちが自分たちの力で問題に取り組めるよう支援している。
- 授業や学生アシスタントの活動では、体験したことを学びに繋げられるよう必ずリフレクションの機会を設けている。リフレクションでは学生同士で学び合えるようグル

ープで行い、リーダーとしての視点、フォロワーとしての視点、他のメンバーとのコミュニケーションや自分自身の立ち居振る舞いなど、様々な点からリフレクションを行い、改善できる点はなかったかなどを互いに意見交換する場を設けている。

【成果・評価】

- 学生アシスタントをやってみたいと希望する学生が増加した
- 1年生からの学生アシスタントの評価が改善した
- SA・メンターが授業以外の時間で自主的に活動するようになった
- 今何に取り組むべきなのかを学生アシスタントが自分たちで考えられるようになった

【目標】

<短期目標>

- 時代の変化に合わせて社会力演習の授業内容を見直し、より能動的に学べるようにする（2022年4月）
- 社会力演習の授業に対する評価を教員、SA・メンターにヒアリングし、授業改善に取り入れる（2022年8月）。

<長期目標>

- 最先端の教育手法を取り入れ、正課・正課外の垣根がない教育の場をつくる
- 学生同士が学び合う場を実現する